

10期 生演奏で楽しむ音楽科

～心豊かなひと時～

日 時	令和4年6月10日
場 所	ナムの広場（池田市）
学習テーマ	楽器の魅力と表現力②サクソフォーン
講 師	崔 勝貴 先生（サクソフォーン奏者・大阪音楽大学講師）
共 演	村上彩菜 先生（ピアノ伴奏 大阪音楽大学演奏員）

講師の崔勝貴先生は2018年大阪音楽大学大学院修士課程を首席で修了され、その後幅広い演奏活動と共に大阪音大や2校の高校で講師として活躍されている方である。今回は楽器の歴史、魅力や表現等について興味深いお話を交えながら素晴らしい演奏を聞かせて頂き、感動の2時間であった。

主な話の内容

- ・サクスの種類は通常高音部からソプラノサクス、アルトサクス、テナーサクス、バリトンサクスの4種類で演奏する。他に特殊な物として更に高音部を担当する2種類と更に低音部を担当する2種類のサクスがある。
- ・サクスの歴史は他の楽器より新しく大体1840年に開発された管楽器で素材は真鍮で出来ており唯一特許を取得している。当時の楽器の不足部分を補うため金管楽器のように大きな音が出せ、木管楽器のような細やかに指回しのできる楽器として作られた。製作者はベルギー人のアドルフ・サクスでサクソフォーンと名付けられた。
- ・音の出る仕組みは、シングルリードでリードの材料は葦である。指使いはリコーダに似ており比較的簡単であるが唯一の欠点は音域が狭く2オクターブ半しかない事である。
- ・特殊奏法には重音、循環呼吸、高音拡大、ポルタメント等があるとのことで説明しながら実演された。
- ・サクスは新しい楽器で開発された時代はオーケストラの編成がすでに確立されており新しく参入する事が困難であった。その為ヴァイオリンのようなクラシックの名曲は生まれていない。しかしサクスの表現力の幅の広さや倍音が人間の声に近い等を活かし、他の楽器の名曲や歌曲をカバーしてジャンルを超えた多くの曲を演奏できることがこの楽器の強みである。

演奏曲

- ・ J. サンジュレー コンチェルティーノ op.78
- ・ C. ドビュッシー ラプソディー
- ・ V. モンティ チャルダッシュ
- ・ 野田 燎 MA I
- ・ R. シューマン アダージョとアレグロ
- ・ G. カッチーニ アヴェマリア
- ・ G. プッチーニ 歌劇「トゥーランドット」より 誰も寝てはならぬ
- ・ 尾崎 豊 Oh my little girl
- ・ A.ピアソラ リベルタンゴ



○午後は、豊中服部緑地公園にある日本センチュリー交響楽団の練習場を訪問し、本番一日前の練習を見学する。